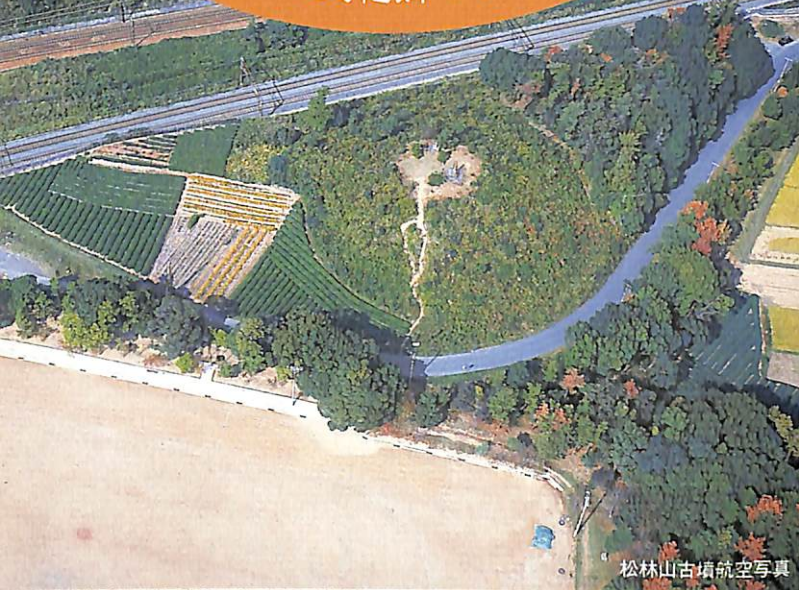


い わ た ふるさと散歩

東部編
磐田文化財マップ



松林山古墳航空写真



旧東海道松並木（三ヶ野地内）

太田川に育まれた風土

— 東部地区の文化財 —

磐田市の東部地区は、磐田原台地と太田川によって造られた平野部からなります。この地域は、太田川がはぐくんだ大地といえます。太田川が運んだ肥沃な土地は、豊かな稲作地帯を与えてくれました。磐田で最初の弥生時代のムラもこの付近に営まれ、古代から中世にかけての遺跡も多く分布します。水田地帯から見上げる磐田原台地上には、松林山古墳などの著名な古墳が点在します。これらの古墳は、古代遠江をリードした首長の墓です。首長たちは太田川の平野の生産力を背景とし、この地域に君臨しました。

江戸時代に京と江戸を結んだ東海道は、この地域の北部を横断します。鎌倉や東国へ通じる中世・古代の東海道もやはりこの近辺を通過したと考えられます。東海道の道筋には、松並木や道しるべなどが残ります。

東 海 道 を 歩 く

●見付宿^{みかの}～三ヶ野～西島

見付宿から袋井宿との間には磐田原台地や太田川、桶ヶ谷沼などの変化に富んだ風景が続きます。東大久保や三ヶ野には松並木が残り、当時の往来を偲ぶことができます。江戸に向かう旅人は、安久路川が流れる小さな谷部（東大久保）を越え、三ヶ野に向かいます。台地を下る手前の三ヶ野坂上には車井戸が掘られ、立場が置かれていました。また、弘化4年（1847年）銘の道しるべが立てられています。三ヶ野坂付近には、鎌倉時代から現代まで、7つの道があります。

見付宿～三ヶ野～西島



三ヶ野付近詳細図

〔大日堂と本多平八郎〕

三ヶ野坂の東に、大日堂と呼ばれる祠があります。この付近は古くから大日山と呼ばれ、大日如来が祀られ信仰の対象となっていました。大日堂は古墳の上に造られています。元亀3年（1572年）に武田軍は遠江に侵攻し、徳川軍と戦を交えました。徳川方の武将である本多平八郎は、大日堂にあった大松に登り武田軍の様子を偵察したと言われます。大日堂からは袋井・浅羽方面を一望することができます。



大日堂付近に残る古代の道

〔遠江最後の王墓―甕塚古墳〕

三ヶ野坂の北側に見える丘陵の頂に、甕塚古墳が造られました。この山は東海道からも見上げることができ、絵図などに描かれています。絵図には五色山と記載されており、旅人からは「ぼぼ山」とも呼ばれていました。甕塚古墳は古墳時代後期に造られた円墳で、遠江で最も早く横穴式石室が取り入れられました。発掘調査では馬具や鏡、土器類が出土しました。遠江に君臨した最後の首長墓とも言える古墳です。



甕塚古墳から出土した土器

太田川にかかる橋を三ヶ野橋と呼びます。三ヶ野橋は長さ40歩、幅1丈8尺の板橋で、これを渡ると西島です。東海道に面する全海寺には、徳川家光の命を救ったという話を伝える下馬地藏があります。街道の南側には旗本・菅谷氏の陣屋がありました。須賀神社の東側の小道を、「御陣屋小路」と呼んでいます。



三ヶ野坂（江戸時代の街道）



西島付近詳細図

〔桶ヶ谷沼と鶴ヶ池〕

磐田原台地の東縁部は、浸食により複雑な谷地形をなしています。桶ヶ谷沼や鶴ヶ池は、こうした谷地形の下流部にあたり、豊かな自然環境を残しています。鶴ヶ池には源頼朝が兄・朝長の菩提を弔うため、黄金の札を付けた鶴を放したと伝えられます。また、桶ヶ谷沼には67種のトンボが生息しています。



桶ヶ谷沼

〔安全寺と鍋島陣屋跡〕

桶ヶ谷沼の北側に安全寺があります。安全寺の西側の台地上に旗本・鍋島氏の陣屋がありました。この陣屋は安政2年（1855年）に袋井市別所から移されました。しかし、水が不便であることから、文久2年（1862年）に再び移されました。陣屋跡には土塁などが残っています。



須賀神社の大クス

〔須賀神社と大クス〕

須賀神社の境内に生える大クスは高さ15m、推定の樹齢500年を超える大木です。目通り周囲は4mにもなります。江戸時代には東海道を往来する人たちの目印にもなりました。市の天然記念物に指定されています。

磐田東部の文化財

〔二子塚古墳〕

二子塚古墳は、5世紀後半に造られた全長55mの前方後円墳です。墳丘には埴輪が並べられ、周囲には堀が巡っています。埴輪には馬具を飾り着けた馬や、武人などの人物をかたどったものがあります。明治時代に墳丘の中心から馬具などが出土しました。

〔堂山古墳〕

5世紀中頃に造られた県内最大規模を誇る全長110mの前方後円墳です。墳丘の大半は学校用地造成のため土取りされました。墳丘には葺石を並べ、埴輪を巡らしていました。埴輪には筒形の円筒埴輪や、鶏、よろい、桶、鞍などの形を模した形象埴輪があります。埴輪埴輪は磐田の古墳文化の象徴として、そのレプリカは磐田駅前などに飾られています。出土遺物は静岡県文化財に指定されています。



左：鞍形の埴輪
右：よろい形の埴輪

〔縄文時代のムラー西貝塚遺跡〕

縄文時代には今之浦や大池が、海水が混じる入江となっていました。この入江に面した西貝塚に縄文時代の集落が営まれました。西貝塚遺跡ではヤマトシジミが多量に採られ、貝塚を残しました。この貝塚は西貝塚の地名の由来となりました。



西貝塚遺跡の装飾品

〔野際遺跡〕

東部小学校校庭には、野際遺跡が広がっています。発掘調査では、弥生時代の墓穴や、古墳時代前期の方形に溝を巡らした方形周溝墓が見つかりました。また、掘立柱建物が配置されているようすも確認されています。

〔医王寺の文化財〕

医王寺は、聖武天皇の頃（734～748年頃）に創建されたと伝わる真言宗の寺院です。広大な敷地に伽藍を持っていましたが、徳川・武田の争いで焼けてしまいました。江戸時代には境内に8坊が配置され、金剛院を名乗っていました。医王寺には多くの古文書や和算館などが伝わっています。庭園は、江戸時代初期に造園されたもので、市の名勝に指定されています。枯山水の庭園で、小堀遠州の作と伝えられています。



医王寺の山門と参道



馬形埴輪

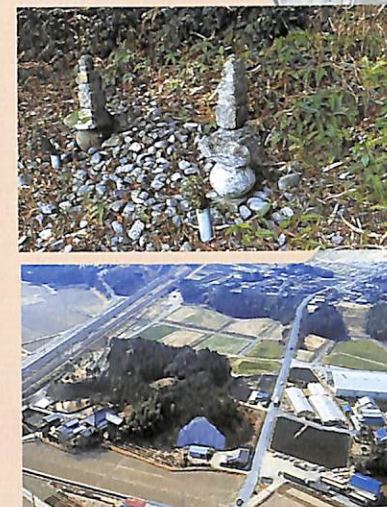
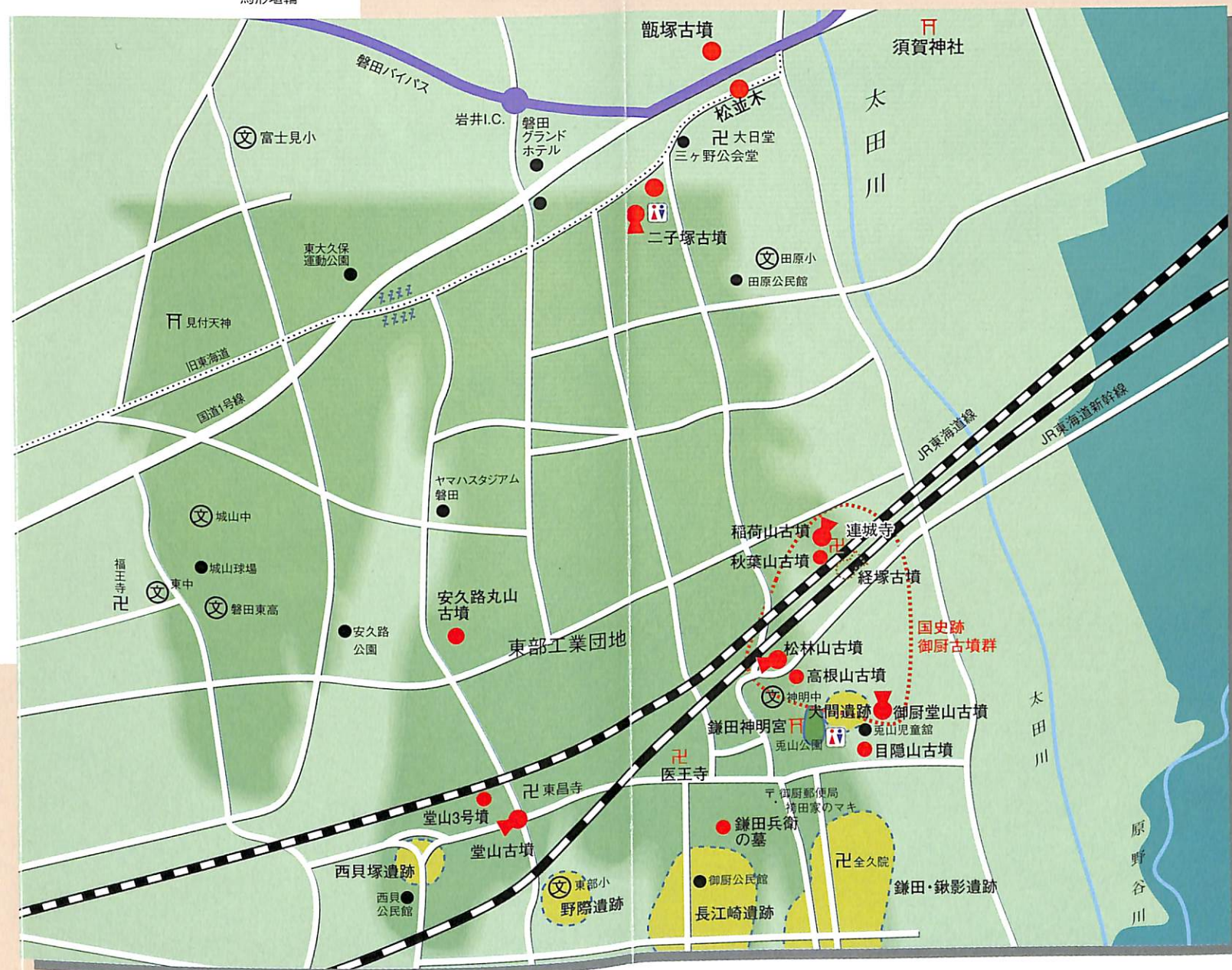
〔連城寺古墳群と平清盛〕

連城寺は、台地が平野部に迫り出した丘陵の先端部に位置します。この丘陵上には、大小8基からなる連城寺古

墳群が造られました。多くの古墳が土取りのため消滅しましたが、連城寺の裏山には2基の古墳が現存しています。前方後円墳である稲荷山古墳と円墳の秋葉山古墳です。ともに50m前後の大型の古墳です。

連城寺は、平重盛が開いた寺院

といわれています。平重盛は父・清盛のため各国毎に3寺を造りました。遠江では連城寺のほか市内二之宮の連福寺、竜洋地区の連覚寺がこれにあたるとされます。連城寺裏山には、かつて経塚古墳の墳頂にあった平清盛・重盛の供養塔が移されています。



上：清盛・重盛供養塔 下：御厨古墳群

〔経塚古墳の鏡〕

経塚古墳は、連城寺の南側にあった前方後円墳です。明治時代に東海道線工事のため破壊されました。墳丘に経塚があったことから、その名がつけられました。鉄道工事の際、三角縁四神四獣鏡が出土しました。この鏡は大阪府万年山古墳から出土した鏡と同じ形で、静岡県の文化財に指定されています。



経塚古墳出土の三角縁四神四獣鏡

〔高根山古墳とその周辺〕

松林山古墳の南側、神明中学校校庭から兎山公園付近にかけて、多くの古墳が存在します。高根山古墳は径52mの円墳で、墳丘には葺石や埴輪片がみられます。東側の丘陵上には御厨山古墳が、南側には径35mの円墳である目隠山古墳があります。鎌田神明宮境内や兎山公園内にも10m前後の円墳が分布しています。また、高根山古墳の周辺では、朝鮮半島で作られた装飾器台が出土しています。



〔鎌田兵衛の供養塔〕

鎌田地区の茶畑の片隅に、供養塔の一群をおさめた小さな祠があります。このうち中央にある供養塔が、鎌田兵衛政家（正清）の墓と伝えられています。鎌田政家は源義朝に属した武将で、平治2年（1159年）に平氏によって殺害されました。供養塔には梵字が刻まれています。江戸時代には、「鎌田兵衛」や年号が刻字されていたといわれますが、今は風化によって判読できません。



鎌田兵衛の供養塔

〔鎌田御厨と鎌田神明宮〕

平安時代以降、太田川右岸に鎌田御厨が成立しました。鎌田御厨は、鎌田をはじめとする旧17ヶ村に及ぶもので、伊勢神宮の神官によって管理されていました。鎌倉時代以降に国司や地頭武士により侵略され、室町時代には衰えます。鎌田神明宮は御厨と密接に関連し、鎌田御厨の惣鎮守として信仰を集めました。式内社である嶋名神社が前身ともいわれています。



鎌田神明宮



鎌田・御厨遺跡出土の瓦

磐田市概略図



1. 獅子ヶ鼻公園
2. 豊岡駅
3. 社山城
4. 豊岡総合センター
5. 米塚古墳
6. 銚子塚古墳・小銚子塚古墳
7. 長者屋敷遺跡
8. 新豊院山古墳群
9. 磐田市立総合病院
10. 磐田スポーツ交流の里ゆめりあ
11. 磐田インターチェンジ
12. 豊田パーキングエリア
13. 鶴ヶ池
14. 桶ヶ谷沼
15. 額塚古墳
16. 熊野の長フジ
17. アミューズ豊田
18. 旧赤松家記念館
19. 埋蔵文化財センター・中央図書館
20. 矢奈比売神社(見付天神社)
21. 旧見付学校
22. かぶと塚公園
23. 京見塚古墳
24. 遠江国分寺跡
25. 磐田市役所
26. 府八幡宮
27. 善導寺大クス
28. 城山球場
29. ヤマハスタジアム磐田
30. 香りの博物館
31. 松林山古墳
32. 医王寺
33. 堂山古墳跡
34. 大池
35. 静岡産業大学
36. なぎの木会館
37. はまぼう公園
38. ゴルフ場
39. 掛塚港跡
40. 竜洋海洋公園

[国史跡 御厨古墳群と松林山古墳]

御厨地区には、遠江でも古くから大型の古墳が造られました。特に松林山古墳、稲荷山古墳、秋葉山古墳、御厨堂山古墳、高根山古墳は「御厨古墳群」として国の史跡に指定されています。

松林山古墳は御厨古墳群の中でも中心的な古墳で、全長107m、後円部径66.5m、高さ10.6mを測る前方後円墳です。昭和6年に郷土史解明を目的に学術調査がされました。後円部は3段に、前方部は2段に墳丘が積み上げられています。墳丘斜面に葺石が敷かれ、埴輪が巡らされています。主体部は長さ7.9mの竪穴式石室です。石室には三角縁獣文帯二神二獣鏡など4面の鏡、水字貝製釧・勾玉などの装飾品、剣・刀・短甲などの武器・武具、農具などが副葬されていました。



松林山古墳墳頂に残る記念碑

発行・編集 磐田市教育委員会文化財課

〒438-0086 静岡県磐田市見付3678-1 TEL0538-32-9699

発行日 平成16年3月31日 平成23年3月改訂